

平成28年度「中学校学力向上対策支援事業」に係る 第1回中学校教科（英語科）指導力向上協議会記録

日時 平成28年5月31日（火）13:30～16:15

会場 コンパルホール 多目的ホール

概要

1 開会挨拶 義務教育課 学力向上支援班参事 内海 真理子

平成28年2月に「中学校学力向上対策 3つの提言」が出された。中学校の授業改善が進まない、成果とつながっていない現状がある。

何かを変えなければならない。教科の壁を乗り越えての校内研・ベクトルをそろえての授業改善・タテ持ちによる教科指導力の向上（生徒指導のためにタテ持ちを取り入れている事例もある）・近隣校との教科研究等、提言の趣旨を理解し、実践に結び付けていただきたい。

本日の本多講師は次期学習指導要領の改訂を見据えた話をしてくださり、各学校の各教室ですぐにでも活用できる内容である。

2 講義Ⅰ 「4技能を統合的に活用することで、発信力を高める指導の工夫Ⅰ」

千代田区立九段中等教育学校 指導教諭 本多敏幸 氏

勤務校は中高一貫校。1年生から6年生までいる。自分が中学校時点で教えた生徒たちを、そのまま高校で教えたらどうなるかと思い、現任校にやってきた。

【課題】

2021年から新学習指導要領が始まる。だからそれに向けての授業改革が必要。

平成27年の英語力調査によると、4技能のバランスが良くない・学習意欲の課題や技能統合型の言語活動・指導が十分でない等の課題が見えた。英語は嫌われている教科である。知識詰め込み型から活動重視型へ移行している中、中学校の授業改革が問われている。生徒に英語力を付けていかなければならない。学習指導要領の3つの評価の観点[知識・技能][思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]を踏まえた改善が必要となる。

【授業の組み立て】

授業は英語です。1つのパートを2時間で教える場合、「1時間目＝文法 2時間目＝本文」という従来のやり方ではダメ。本文には何度も触れさせたほうが身に付く。1回では無理がある。1時間目の文法は軽く、本文の音読をたくさんやる。文字が音声化すればよい。音読は自分で読めるようになることが大事なので、徹底的なコーラスリーディング等を行う。帯活動もコミュニケーションタイム等で活用する。

教材研究をする際には、この教材をやった後の生徒に何をさせるかが大切。アフターリーディング活動＝もう一度読む。考える。休み時間に教科書を使い覚えようとする。本文を学んだ後に、本文を活用した活動を入れることが大切。

【教科書本文を活用した指導例】

After Reading Activity＝1～2文付け加えてなりきりスピーチをする。意味を考えて、つながりを持たせて、書かせていく。言わせていく。点（単語）じゃなく線としてつなげていくことが、大きく表現力に影響する。

※実際の授業風景を動画で視聴

1年次対話文；対話文を説明文に。書く学習の中でさりげなく文法学習を入れると全体的に流れが良い。

2年次物語文；絵を見て1～2文でつなぐ。

3年次説明文；ゴッホと浮世絵の2枚の絵でスピーチ。

…できる子はクラスに数人だが、「できないからやらせない」では、いつまでたってもできない。

ちょっとでもできたらそれを伸ばしてあげる。

3 講義Ⅱ 「4技能を統合的に活用することで、発信力を高める指導の工夫Ⅱ」

【英語力をつけるための有効な活動】

とにかく書かせる「コンポノート」…添削は一箇所のみ。何箇所やっても生徒は見てくれない。紹介したい、良い間違いは全部直す。

文法のプリントは時々やる。

通常、英語を使って授業をしていく中での『時々日本語』…効果ある。

【2文で応答するQ&A】・・・文と文のつながりを持たせる。(帯活動)

①プリントを見ながらのQ&A…答える側も文が見えているので相手の言うことを聞かない。(覚えられない、効果はあまりない、口慣らしのみ)

②答える側は見ないQ&A…見えないので相手の言うことをよく聞く。(特に頭に付く語をよく聞く)

③答える側は見ないで2文で答える…答える内容をどう話したらよいかを考える。

※実施の仕方は、初回1～5、2回目3～7、3回目5～9というふうに例文を少しずつ重ねながらずらしていく。…同じ例文をもう一度やらせたいから。

※パートナーを代えていくのも効果的。…前のパートナーが言った良い表現は遠慮なく使っていく。

毎回の授業で「チャット」→うまくいかない→文をくっつける練習→続けていくと生徒はできる。

いろんな言語活動に入れられるので忘れない。

【家庭学習の指示】

「予習はするな！」ただし「復習は徹底して」やる。

7steps…学校で一生懸命教えても家に帰ったら忘れる→音読CDを購入するかダウンロードする。

- ・教科書を開いて音読。閉じてCDの後に続いて音読。
- ・新しい単語を自分に合わせて書く。
- ・黙読
- ・CDを聞き、英文をノートに書く。
- ・答え合わせ。間違い直し。

・・・統合的な活動に生きてくる。

【まとめ】

「定着を図る」3要素＝〔くり返し・暗唱・考えて使用〕。先を見据えてやることが大切。

最後のまとめは教師が言うのではなく、生徒同士が言うていく。

(自分の言葉で言えないのはわかっていない)

4 行政説明

義務教育課 指導主事兼課長補佐 小田 雅章

◎英語教育推進プラン

- 小・中・高等学校の各学校段階での学習到達目標を明確にし、言語活動の充実を図る。
- 教員の英語力・指導力の向上を図る。
- 目標を達成するために、検証・改善のサイクルを確立する。

◎平成28年度中学校教育課程大分県研究協議会外国語部会協議主題

- 4技能をバランスよく育成するとともに、2技能以上を統合的に活用する。
- 思考力、判断力、表現力を育成する授業改善をどのように進めるか。

パフォーマンステストは「日本語に直しなさい」ではない。自分のことに落とし込んでいくこと。

大分県の英語教育は、ゆっくりではあるけれどしっかり前進している。

凡庸な教師はよくしゃべり、少しましな教師は理解させようと努め、優れた教師は自らやってみせるが、本当に優れた教師は『心に火をつける』。

(文責：義務教育課 担当：別府教育事務所 小倉)